



写真1：人工心肺装置を用いた手術の様子



臨床工学科  
担当課長  
高平 篤法

その他にも 高気圧酸素治療業務、循環器内科心臓カテーテル治療に関連する機器操作、各診療科依頼の血漿交換、血液吸着など臨床業務範囲は多岐にわたり、年間依頼件数は平成22年実績で約2300件のべります。

### 当科の概要

臨床工学技士は昭和62年に国家資格として誕生し、およそ24年と歴史の浅い医療資格ではありますが、治療領域における生命維持管理装置の操作および保守点検を主たる業務とし、当院では平成16年度より単科として独立部署となり、現在5名の臨床工学技士（Clinical Engineering：CE）が勤務しています。

現在勤務している技士はそれぞれ体外循環（人工心肺）技術認定士、呼吸療法認定士、高気圧酸素治療認定士などの学会認定資格を有し、さらに各医療機器メーカー認定の保守資格を取得し、臨床と保守の両面で専門職として業務に当たっております。

### 臨床業務

手術室関連では心臓手術等での人工心肺業務をはじめ自己血回収業務、内視鏡手術機器操作業務、脳手術時の運動誘発電位モニタリングなど多彩な業務に対応しております。

救命センター関連では、近年報道されている経皮挿入人工心肺（PCPS）は、少しでも救命率が上がるようオリジナルなものを考案し導入しており、他にも急性血液浄化など緊急性の高い依頼に24時間対応しております。



写真2：人工心肺装置を用いた手術の様子

### 機器保守管理業務

人工呼吸器・シリンジポンプ・輸液ポンプ・除細動器・電気メス・体外式心臓ペースメーカー・患者監視装置などの院内中央管理医療機器の保守点検業務をはじめ、可能な限り院内で機器修理も行い、医療機器安全管理体制を確保するために、2000台以上の機器の保守計画管理を行っています。

### 今後に向けて

臨床工学科は、医療機器の操作、保守のスペシャリストとして安全な医療が行えるようにチーム医療の中で日々貢献しています。いわば最新医療の縁の下力持的存在で少ない人員ながら頑張っておりますが、今後さらに専門的な技術を生かし、多方面でより安全な医療が提供できるよう臨床工学科の体制を構築していきたいと考えております。



前列右より：進藤技士・高平課長・前中技士  
後列右より：竹浪技士・山下技士  
（7月より欠員補充、増員により7人体制となります。）